

# わがまち自慢

## ～市長室から～

おまえざき  
静岡県御前崎市  
いしはらしげお  
石原 茂雄 市長



平成16年4月、旧浜岡町と旧御前崎町の合併により御前崎市が誕生し、来年10周年を迎えます。市民の皆さんのご協力により、市民と行政が一体となった大変良い、合併によるまちづくりができたと感じています。

この10年間で、時代背景や市民ニーズの変化により新たな行政需要が生まれてきました。

その一つが耕作放棄地問題です。市では沿岸部を中心に耕作放棄地が広がり、これを食い止めることが課題となっています。こうした耕作放棄地をなくするという目的で、国道150号沿いの旧静岡県農業試験場の跡地に、平成26年4月開設予定の農業振興拠点施設を建設しています。

この農業振興拠点施設は、農産物の直売所や加工施設、実証圃場、先端農業ハウス、展示温室などに加え、農業体験が可能な市民農園や、「道の駅」も兼ね備えた施設です。ここでは、これから農業を始める人たちに栽培方法を教えるとともに、周辺の農家で栽培された野菜を販売することなどにより、耕作面積を拡大し、耕作放棄地の解消を目指していくものであります。

もう一つの需要としては、御前崎灯台下周辺の再整備があります。市のシンボルでもある御前崎灯台の周辺は、大型のホテルが撤退

した後、閑散とし、かつて観光で賑わっていた頃とは随分変わってしまいました。このようなことから、御前崎灯台周辺の遊歩道や駐車場を市が整備し、併せて（一社）御前崎スマイルプロジェクトが（公財）日本財団の助成を受けて「渚の交番」を建設することとなりました。

「渚の交番」は、（一社）御前崎スマイルプロジェクトが展開する海岸や地域のパトロール、マリンスポーツを通じた青少年の健全育成、海辺の環境保護活動、観光客に対する御前崎の魅力発信の拠点となる場所です。

農業振興拠点施設と御前崎灯台下周辺の整備は、市制施行10周年記念事業と絡めながら実施していく予定です。

一方、当市の基幹産業である農業が元気であれば地域がもっと元気になるのですが、原油の高騰や価格の低迷などにより、経営の厳しい状況が続いています。このような中、静岡県では、全国や海外に誇りうる価値や特長を備えた県内の商品を認定する「しずおか食セレクション」を実施しており、昨年度「御前崎つゆひかり」「遠州夢咲牛」「御前崎生かつお」が認定されました。

「御前崎つゆひかり」は、早生品種のお茶で、平成15年度から市の補助金などにより、御前崎市茶業振興協議会が中心となり普及促進

を図りました。

「遠州夢咲牛」は、内閣総理大臣賞や3年連続で農林水産大臣賞を受賞したことがある、黒毛和種の和牛です。生産方法の改良により、程よく霜降りになった肉は、食べた瞬間口の中でとろけるくらい柔らかく、大変おいしいお肉です。

「御前崎生かつお」は、近海で一本釣りし、御前崎港に水揚げされる生のカツオのことです。市内でのカツオの食べ方は「たたき」など様々ありますが、主に新鮮なままの刺身で食べられています。

来年度は市制施行10周年の節目の年です。今までの10年間を振り返るとともに、今後に向け、市民は住んで良かったと思い、他地域からは御前崎市に住んでみたいと思えるようなビジョンを掲げ、まちづくりに邁進していきたいと思えます。

今後、様々な「市制施行10周年記念事業」を実施します。私も積極的にトップセールスを展開して市の魅力を売り込みますので、皆さまも「海と緑と笑顔がきらり輝く」御前崎市へぜひお越しください。（談）



農業振興拠点施設  
(完成予想図)

御前崎つゆひかり



御前崎灯台

御前崎生かつお

